



石大神の風穴洞穴(小岐須町)



Vol.17

鈴鹿市のクモ

8本足のクモは、6本足の昆虫と同じ節足動物の仲間ですが、分類学的には昆虫綱とは全く別で、クモ綱として分類されています。一般的にクモは、網を張って害虫を捕え、食べているというイメージが強いため、人間にとって有益な動物として知られています。

クモは、世界に約3万5,000種、日本には、約1,400種が知られており、また三重県では、約510種が記録されています。今回の調査により本市では、337種のクモが確認されました。

オニグモ 【三重県:準絶滅危惧】

かつては市内全域で見られた一般的なクモでしたが、近年の急速な田畑や雑木林の宅地化や、農薬散布などの影響により、生息域が狭くなり、特に市街地周辺で見られることが減少しました。



シノビグモ 【三重県:絶滅危惧II類】

山間の溪流や源流の湧水など、湿度の高い場所に生息し、シダ類の根元や石の間に潜んでいます。津市美杉町で初めて発見され、伊賀地方の忍者にちなんで「忍び」グモと命名されました。入道ヶ岳奥ノ谷で確認されました。



スズミグモ 【三重県:準絶滅危惧】

腹部背面の模様が美しいクモで、林内の樹間にドーム状の30~80cmの大きな網を張ります。長澤町長瀬神社、山本町椿大神社で確認されました。



スズカホラヒメグモ 【三重県:絶滅危惧IB類】

鈴鹿山系の石灰岩の洞くつ内に生息している種で、岩のくぼみに網を張り、一生を洞くつで過ごします。小岐須渓谷の洞穴で確認されており、この洞穴は本種の分布の南限となっています。



ヒメスジハエトリ

網を張らず、歩き回って、小さい虫を捕獲するハエトリグモ類の中では最小のクモで、いつもジャンプしながら獲物を探しています。千代崎海岸で確認されました。



広報すずか 2009年1月5日号



新年明けましておめでとうございます。本年も「広報すずか」をよろしく申し上げます。今年度は暦の関係上、冬休みが長い方も多くみえるのではないのでしょうか。わたしたち広報グループは、年末の休みが早いので、広報すずかの締め切りに追われる毎日でした。さて、皆さんは新年をどのように迎えましたか。

初もうでには行きましたか。おせち料理は食べましたか。わが家では、新年の2日、3日はこたつに入って早朝から家族そろって新春恒例の箱根駅伝を見ることが、毎年恒例行事となっています。家族団らんで正月を仲良く過ごさて、のんびりものですよ。(弘)

表紙写真

初春の伊勢湾初日の出

撮影場所 下箕田の海岸
撮影日 平成20年1月1日
撮影者 長谷 正さん

